

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学国語）

学校名 逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p><b>国語 A（主に知識に関する問題）</b>                  平均正答率は、全国平均を 5%以上、上回っています。                  領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均を上回っています。                  特に、「書くこと」と「言語についての知識・理解・技能」に関する設問の正答率は全国平均よりも 10%も高いという良好な結果でした。</p> <p><b>国語 B（主に活用に関する問題）</b>                  平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%以内）でした。                  領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均とほぼ同じ（±5%以内）で、大きな課題は見られません。                  強いて言えば、記述式の設問の正答率が、やや低めです。（-5%以内）正答数が全国の中央値に達しない児童が半数近くいます。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○A,B 共に全体の平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%以内）でした。                  ●B問題の「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」ことが求められている記述式の設問の正答率が、やや低めです。（-5%以内）</p>
<p>書くこと</p>	<p>○A問題で「物語を書くときの構成の工夫の説明とし適切なものを選択する」設問では、10%以上全国の正答率を上回っています。                  ●B問題でもこの領域に関する選択式の設問では、5%程度全国の正答率を上回っています。しかし、記述式の設問では正答率がやや低めになります。（-5%以内）</p>
<p>読むこと</p>	<p>○A,B 共に全体の平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%程度）でした。</p>
<p>伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項</p>	<p>○A 問題のこの領域に関する設問 8 問中 6 問が、10%以上全国の正答率を上回っています。                  ※B 問題にはこの領域に関する設問はありません。</p>
<p>児童質問紙 国語に関する質問 問 5 8～5 9</p>	<p>○調査問題の解答時間は十分であったかという質問に対して、A,B 共に約 60%の児童が「時間が余った」と回答しており（全国平均では A は 44.1%、B は 40.3%）、このような形式の学力調査への抵抗感は低いといえます。</p>

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学算数）

学校名 逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>A,B 共に平均正答率は、全国平均を 5 %以上、上回っています。</p> <p><b>算数 A（主に知識に関する問題）</b>                  領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均を 2～11%上回っており、大きな課題は見られません。</p> <p><b>算数 B（主に活用に関する問題）</b>                  領域別、観点別、問題形式別で正答率をみても、全国平均を 4～11%上回っており、大きな課題は見られません。</p>
<p>数と計算</p>	<p>○数と計算に関する設問は A,B 合わせて 11 問ありましたが、そのうち 9 問は全国平均正答率を 10%前後上回る好成績でした。</p> <p>●その中で、A 問題の「針金 1 m の重さを求める式を選ぶ」設問の正答率が全国平均とほぼ同じだったことから、単位あたり量の求め方についての確認の必要性を感じます。</p>
<p>量と測定</p>	<p>○量と測定に関する設問は A,B 合わせて 8 問ありましたが、そのうち 5 問は全国平均正答率を 10%前後上回る好成績でした。その中でも、A,B それぞれに 1 問ずつあった角度に関する設問は、全国平均を 20%近く上回っていました。</p>
<p>図形</p>	<p>○図形に関する設問は A,B 合わせて 5 問ありましたが、そのうち 4 問が全国平均正答率とほぼ同じで、1 問（角度に関する設問）は、全国平均を 20%近く上回っていました。</p> <p>●円の直径、円周率、円周の関係の確認の必要性を感じます。</p>
<p>数量関係</p>	<p>○数量関係に関する設問は A,B 合わせて 10 問ありましたが、そのうち 8 問が全国平均正答率を 10%前後上回る好成績でした。</p> <p>●課題は、「数と計算」「図形」の項と同様です。</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問 27～37</p>	<p>○算数に関する質問に対する回答は概ね良好な傾向が見られ、多くの児童が望ましい算数の学習スタイルを確立させ、内容をよく理解していると言えます。</p> <p>●「算数の勉強が好きか」「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか」「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」という設問に対する肯定的な回答が、全国平均を 10%前後下回っています。学習に向う姿勢が受身であるという印象を受けます。</p>

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析（小学理科）

学校名 逗子市立久木小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>平均正答率は全国とほぼ同じ（+5%以内）でした。</p> <p>枠組み別では「主として『知識』に関する問題」、区分別では「物質」の正答率が、全国平均を5%以上、上回っています。観点別では「観察・実験の技能」が全国平均を10%以上、上回っています。問題形式別では、記述式の設定で正答率がやや低めです。（-5%以内）他は、全て全国平均とほぼ同じ（+5%以内）でした。</p>
<p>物質</p>	<p>○選択式で答える設問の正答率は、全国平均と比べて5～15%高く、好成績です。</p> <p>●食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書くことができた子の割合が低めです。</p>
<p>エネルギー</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ（±5%程度）でした。</p>
<p>生命</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ（±5%程度）でした。</p>
<p>地球</p>	<p>○平均正答率は全国とほぼ同じ（±5%程度）でした。</p> <p>●一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書くことができた子の割合が低めです。</p>
<p>児童質問紙 理科に関する質問 問38～53</p>	<p>○理科に関する質問に対する回答は概ね良好な傾向が見られ、多くの児童が理科の学習に真面目に取り組み、内容をよく理解していると言えます。</p> <p>●「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしているか」「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えているか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」「5年生のとき、理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことがでてきたか」という設問に対する肯定的な回答が、全国平均を5%以上下回っています。学習に向う姿勢がやや受身であるという印象を受けます。</p>

# 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（児童質問紙）

学校名 逗子市立久木小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- 全体的な回答傾向から、本校の児童が良好な学校生活・家庭生活をおくっていることと、この地域の家庭の教育力の高さが伺われます。
- 算数、理科に関する質問の回答傾向から、主体的に学習に向かう姿勢がやや弱いように感じられます。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、「当てはまる」と回答した割合が、全国平均を大きく下回っています。「どちらかといえば、当てはまる」と合計すると、全国並みの割合になりますが、「いけないと思うけど、しょうがないところもある」というような意識が広がっていることが感じられ、見過ごせない結果だと受け止めています。
- 地域との関わりを問う質問に対する回答の結果が実態と異なっています。実際には、子ども会や地域のスポーツクラブに所属して活動したり、学校支援地域本部事業に参加したりしている児童が多く、地区で行われる様々な行事への参加率が大変に高いのが本校の児童の特徴です。また、地域住民の学校の授業への協力度も高い方であるといえます。質問で問われていることと、自分の生活上の経験を結びつけて考えることができなかつただけなのではないかと思われます。

## 平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取り組み

学校名 逗子市立久木小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

1. 一人ひとりの児童の学力向上につながるよう、指導の工夫・改善に継続して取り組みます。  
一人ひとりの調査結果からその「個」の学力・学習状況を把握し、それぞれの個に応じた指導のあり方を考えていきます。学習の過程では、自分の言葉で自分の考えを表現することを大切にします。
2. 探究的な学習の実現を目指して、校内研究に取り組みます。  
生活科・総合的な学習の時間の授業研究を通して探究的な学習のあり方を探り、「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげます。
3. こころの教育に継続して取り組み、いじめを許さない学校づくりにつなげます。  
各教科、総合的な学習の時間、道徳教育等、あらゆる教育活動を通して、他者への思いやりや自分を大切にする心を育む指導を展開していきます。
4. 「開かれた学校づくり」の状況について、周知を図ります。  
本校の「地域に開かれた学校づくり」は、ソフト面で深化しています。反面、連携による恩恵が当たり前になってしまって、その存在を意識しなくなっているという実態があります。学校を支えてくださっている方々の存在と働きについて、折に触れて周知を図っていきます。

